

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	2	ぬくもり・雄武		整理番号	34
基本施策	10	地域福祉の推進	評 価 責 任 者	保健福祉課長 山崎 佳之	
単位施策	2	ボランティアの育成とネットワーク化の促進			

1 施策の概要

基本方針	ボランティアの体験教室や研修会、交流会の充実により、ボランティアの掘り起こしや資質向上を進める。また、ボランティア情報の提供や、ボランティア同士の横のつながりをコーディネートし、ボランティアネットワークを強化する。				
現状と課題	【現状】（平成21年度末）		【現状】（平成23年度末）		
	地域福祉の組織的な担い手である社会福祉協議会をはじめ、民生児童委員、ボランティア団体等が連携して活動しているが、近年、地域自治会・高校生・事業所等が国道花壇整備、事業所の老人福祉施設清掃などのボランティア活動等が広がってきている。		地域福祉の組織的な担い手である社会福祉協議会をはじめ、民生児童委員、ボランティア団体等が連携して活動しているが、近年、地域自治会・高校生・事業所等が国道花壇整備、事業所の老人福祉施設清掃などのボランティア活動等が広がってきている。		
	【課題】（平成21年度末）		【課題】（平成23年度末）		
	近年、地域自治会・高校生・事業所等のボランティア活動が広がりをみせておりますが、今後、地域の高齢化にともない連携した活動が求められるなか、地域福祉の組織的な担い手である社会福祉協議会を中心としたネットワーク化、ボランティアの育成が必要となってくる。		近年、地域自治会・高校生・事業所等のボランティア活動が広がりをみせているが、今後、地域の高齢化に伴い連携した活動が求められるなか、地域の社会資源を活用したインフォーマルサービスとの連携により、ニーズに応じた多様な支援を行う必要がある。		

2 基本施策指標

指標1	指標名	社会福祉協議会ボランティア登録者数						
	定義等	登録者数						
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							80人
	実績値	36人	34人	31人	43人	40人		
指標2	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	【再掲】社会福祉協議会補助事業	社会福祉係	3,000	A	継続/拡充	A
②	【再掲】雄武町民生児童委員協議会運営補助事業	社会福祉係	98	A	継続/現状維持	A
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	地域福祉推進のためには、ボランティアの掘り起こし、育成していくことは、妥当である。
② 有効性	A	地域福祉推進のためには、ボランティアの育成とネットワーク化の促進を行うことは、有効である。
③ 効率性	B	本施策推進には、地域福祉の組織的な担い手である社会福祉協議会をはじめ、民生児童委員、ボランティア、地域住民等の活動を進めることができた。
④ 公平性	B	地域福祉の組織的な担い手である社会福祉協議会を中心として、民生児童委員、ボランティア団体、地域住民等がより連携しネットワーク化を図ることで、公平に対応できる体制ができています。
⑤ 町民意見の反映	B	地域福祉の組織的な担い手である社会福祉協議会を中心に、民生児童委員、ボランティア団体、地域住民等が連携してネットワーク化して地域福祉活動に取り組み、意見交換していることは、理解を得られていると判断する。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
B	B	
地域福祉の組織的な担い手である社会福祉協議会を主体として、民生児童委員、ボランティア団体、地域住民等が地域福祉活動に取り組んできた。	同左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
多くの住民の方に地域福祉推進のため、ボランティアの必要性を理解していただき、登録者数を増やし、活動していくことが必要である。	同左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止